

## DATA FILE



単斜晶系

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 名前   | HIDDENITE(ヒッデナイト)/ヒッデナイト    |
| 化学組成 | $\text{LiAlSi}_2\text{O}_6$ |
| 色    | 緑色                          |
| 光沢   | ガラス光沢                       |
| 蛍光   | なし                          |
| 条痕   | 白色                          |
| 劈開   | 完全                          |
| 断面   | 不規則                         |
| 硬度   | 6.5 ~ 7.5                   |
| 比重   | 3.0 ~ 3.2                   |

# ヒッデナイト

## HIDDENITE

リシア輝石のなかまであるヒッデナイトは、クロムを含んでいると濃い緑色になり、2価の鉄と4価のマンガンを含んでいると色が薄くなる。

ヒッデナイトの角柱状の結晶。

長時間、日にさらされると色があせる性質を持ち、炎の中に入れると赤色の炎色反応を示す。

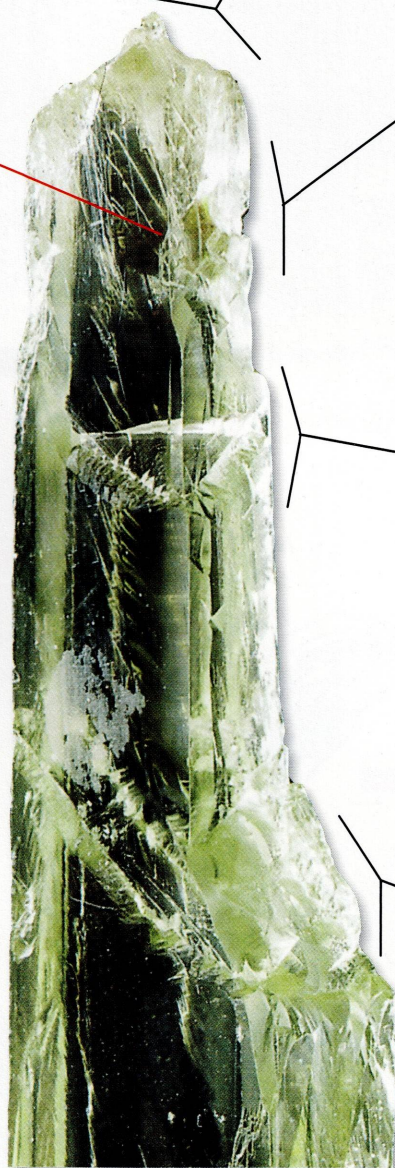
晶系は単斜晶系。多くは四角柱状で条線が入っている。

リチウムの原料のほか、ガラスや磁器の原料になる。また、質のよいものはさまざまな形にカット加工され、宝石に加工される。

地下深部で形成された花崗岩ベグマタイト中に生成し、共生鉱物に長石や白雲母、石英などがある。

透明でガラスのような光沢を持ち、素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

劈開は完全で、ハンマーなどでたたくと不規則な断面があらわれる。





### 緑色のリシア輝石

アメリカのノースカロライナで発見されたヒッデナイトは、当時、新鉱物だと思われていたため、発見者のアメリカ人探鉱師、A・W・ヒドゥンにちなんで、その名がつけられたが、後に細かい分析が行われた結果、リシア輝石と同じ鉱物であることが判明。しかし、すでにその時には、「ヒッデナイト」として定着していたため、この呼称は『緑色をしたリシア輝石』の名前として残されることとなった。

リシア輝石には、そのほかに無色、白色、灰色、黄色、ピンク色、紫色のものがあり、なかでもピンク色のものは「クンツァイト」と呼ばれている。

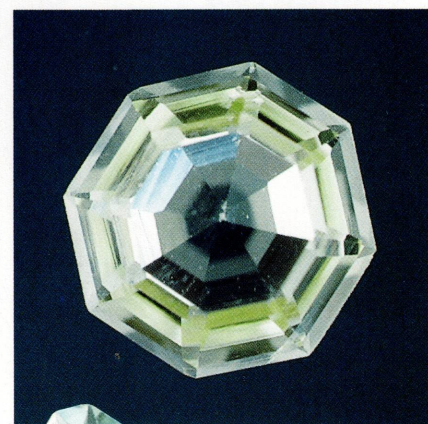
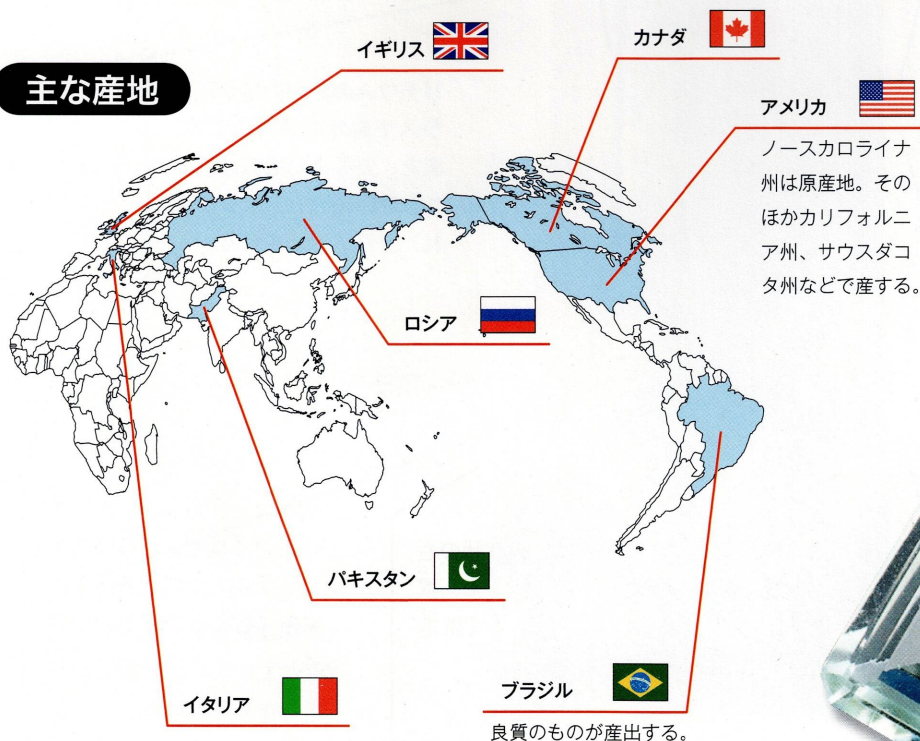
ヒ  
ッ  
デ  
ナ  
イ  
ト

▼ファセットが刻まれたヒッデナイト。



▲柱状結晶のヒッデナイト。

### 主な産地



▲ブラジルで採れたヒッデナイト。



◀長方形にカットिंगをほどこされたヒッデナイト。